

音楽科「体を動かしながら鍵盤ハーモニカを演奏しよう」

名古屋市立笠寺小学校 平賀 真司

1 指導目標

鍵盤ハーモニカで楽曲を演奏するとき、器具を用いて体を動かすことで、リズムに合わせて演奏したり、友達と音を出すタイミングを合わせたりすることができるようにする。

2 児童の実態

1年生A児は、当該学年の学習をほぼ理解することができる。鍵盤ハーモニカを手にとると、音を出すことに喜びを覚え、常に音を出している。ドレミの音階の位置を教えると、理解することができたが、音を出すことに夢中になり、曲のリズムに合わせることに難しい。また、自分のタイミングで演奏し、友達の音を聞いたり、タイミングを合わせて演奏したりすることが難しい。

3 単元において目指す深い学び

音階マットの上に書かれた五線の上の音符場所を確認して、ト音記号の「ドレミファソラシド」を、五線と音符を見て読めるようにする。また、音階マットを横並びにし友達と一緒に演奏することで、自分とは異なった音を出すタイミングに合わせるようにする。

4 深い学びに向けた手だて

五線の上に音の高さを表す音符を書き、音の高さを色別に分けた音階マットを活用する。曲の旋律に合わせて音階マットを並べることで、音の高さを確認することができるようにする。また、音階マットの上を実際に歩きながら音を出すことで、リズムに合わせて簡単な曲を演奏したり、友達と音を出すタイミングを合わせて演奏したりすることができるようにする。

5 指導計画（9時間完了）

時数	主な学習活動
1	鍵盤ハーモニカの使い方を知る。
2	音階マットを使って「ドレミファソラシド」の音を出す。
3	音階マットを使って「ドシラソファミレド」の音を出す。
4	音階マットを使って「ドレミファソラシド・ドシラソファミレド」の音を出す。
5	音階マットを使って、友達と「ドレミファソラシド・ドシラソファミレド」を合わせて音を出す。
6	音階マットを使って、ドレミの歌に合わせて音を出す。また、友達と合わせて音を出す。
7	音階マットを使って、カエルの合唱を一人で演奏する。
8	音階マットをフレーズごとに横に並べ、カエルの合唱を友達二人で輪唱する。

9	音階マットをフレーズごとに横に並べ、カエルの合唱を友達四人で輪唱する。
---	-------------------------------------

6 授業の様子

○ 第1時

A児が鍵盤ハーモニカを初めて手にしたとき、音が鳴る楽しさに夢中になり、自由に鍵盤ハーモニカの音を鳴らしていた。楽器に対する関心が高いと言える。

○ 第2～4時

音階と鍵盤の位置を教えるとき、まず、音階を色で示した。「赤：ド、朱：レ、黄：ミ、緑：ファ、水：ソ、青：ラ、紫：シ、赤：ド」とし、鍵盤にシールを張り付けた。次に、音階マットにも色を示すと同時に五線と音符で音の高さを示した。「ドを押さえるように。」や「赤を押さえて。」など、指示された音は押さえるものの、他の音も押さえる様子が見られた。しかし、マットを床に敷き、マットで指示された音だけ出すように声掛けをすると、自分が乗っているマットの上の音だけを集中して出すようになった。また、音階マットを「ドレミファソラシド」の順に並べると、並べた通りの音の一つ一つ間を取りながら出している様子が見られた。

○ 第5～6時

音階マットを「ドレミファソラシド」と並べ、その横に、同じ音が並ぶように横並びに音階マットを並べた。【資料

①】

まず、教師と高学年児童が音階マットに乗り、動きを合わせて隣同士同時に音を出していく手本を見せた。次に、A児と教師

と隣同士マットに乗った。A児は、隣のマットに乗った教師の様子をよく見て、教師の動きに合わせて動き、同時に音を出すことができた。また、友達とも一緒に行うことができた。



【資料① 音階マット】

○ 第7～9時

音階マットをカエルの合唱のフレーズごとに並べ、複数の児童と同時に異なる音を出す活動を行った。まず、教師と6年生が手本を見せた。すると、違う音同士の音の重なりを聞き、「変な感じだけどきれいに聞こえる。」と発言した。次に、手本と同様にA児と教師で行った。すると、A児は教師の動きに合わせて音を出し、異なる音が重なる感じを楽しんでいた。A児を含む児童四人で行ったときも、四人でタイミングをそろえて音を出そうとする動きが見られた。

7 結果と考察

A児は、当初リズムや音階に関係なく、音を出す活動を楽しんでいたが、音階マットの活用によって、自分の動きを調整して指定された音を出したり、自分以外の人とリズムを合わせて、同時に音を出したりする姿につながった。また、同じ音を出すだけでなく、音の重なりを楽しむ姿にもつながった。

以上より、音階マットの活用は、指定された音を出したり、友達とタイミングを合わせて演奏したりすることに有効な手立てと言える。

8 今後の課題

A児に限らず、音のない場所のマット（休符）は、抜かして次の音を出したり、休符の場所でも音を出したりする姿が見られたため、音のない場所を表現できるようにする手立てを考える必要がある。